

國學院大學學術情報リポジトリ

第119巻総目録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/450

第119巻総目録

〔分類索引〕

総記

博物館

中国博物館学の濫觴と展開に関する研究 彭 露 119-10

哲学

インドに根付いた古代ギリシアの原子論 宮 元 啓 一 119-7

「男らしさ」(masculinities) の現象学試論

— 「男らしさ」の現象学はフェミニズムに寄与しうるのか? —

小手川 正二郎 119-12

東洋思想

五井昌久における「霊界」思想の形成 吉 田 尚 文 119-1

宗教

「魔法」という矛盾

— 「魔法少女」形成期における「魔法」の位置付けについて—

石 井 研 士 119-6

神道

五井昌久における「霊界」思想の形成 吉 田 尚 文 119-1

六人部是香の言霊論批判 星 野 光 樹 119-3

月次祭・新嘗祭班幣に関する一試論 塩 川 哲 朗 119-5

山崎闇斎と『旧事大成経』 西 岡 和 彦 119-8

『仏度伝』に見る内山真龍の神観と仏教観 (学生懸賞論文)

鈴 木 健 多 郎 119-8

古代伊勢神宮祭祀と大神宮司 (学生懸賞論文) 山 口 祐 樹 119-9

稲と粟の祭り —大嘗祭と新嘗— 岡 田 莊 司 119-12

仏教

『仏度伝』に見る内山真龍の神観と仏教観 (学生懸賞論文)

鈴 木 健 多 郎 119-8

歴史

「城下町」用語とその概念の変遷 川 名 禎 119-3

日本史

[古代]

- 月次祭・新嘗祭班幣に関する一試論 塩川哲朗 119-5
古代伊勢神宮祭祀と大神宮司 (学生懸賞論文) 山口祐樹 119-9
稲と粟の祭り 一大嘗祭と新嘗一 岡田莊司 119-12

[近世]

- 幕末維新时期盛岡における操興行と盛岡藩 上白石 実 119-2
荷田春満と赤穂浪士 根岸茂夫 119-5
寛永文化期の鷹峯 工藤隆彰 119-5
外川仙天堂信仰の展開 佐藤 優 119-6
『仏度伝』に見る内山真龍の神観と仏教観 (学生懸賞論文)
鈴木健多郎 119-8

[近代以後]

戦時期における衆議院議員の活動と支持基盤

—翼賛選挙非推薦議員安藤正純と無尽・仏教界を中心に—

- 手塚雄太 119-1
日本の産業近代化と入学・就職・転職移動の計量歴史学的研究
—官立仙台高等工業学校を事例として— 田村幸男 119-2
外川仙天堂信仰の展開 佐藤 優 119-6
偽書『南淵書』と権藤成卿、そして朝鮮 山崎雅稔 119-9

アジア史・東洋史

清代中期における書院の「官学化」と科道官 (学生懸賞論文)

田子晃矢 119-8

地理・地誌・紀行

「城下町」用語とその概念の変遷 川名 禎 119-3

社会科学

政治

戦時期における衆議院議員の活動と支持基盤

—翼賛選挙非推薦議員安藤正純と無尽・仏教界を中心に—

手塚雄太 119-1

社会

「魔法」という矛盾

—「魔法少女」形成期における「魔法」の位置付けについて

石井研士 119-6

教育

初級日本語教科書における基本語彙の検討

—フィンランドで編纂された『JAPANIN KIELI』の名詞を中心に—
本 間 美奈子 119-3

アクティブ・ラーニング論に言う「深さ」の問題

—英語教育の改善に向けて—
高 屋 景 一 119-4

風俗習慣・民俗学・民族学

天神祭祀と天神講 服 部 比呂美 119-2

幕末維新时期盛岡における操興行と盛岡藩 上白石 実 119-2

外川仙人堂信仰の展開 佐 藤 優 119-6

日本色話大成序説 —研究史の整理から— 飯 倉 義 之 119-10

芸術・美術

美術としての小説〔ノベル〕の成立

—『小説神髓』における「人情」を手がかりに— 清 水 徹 119-1

言語

初級日本語教科書6種の多義語の頻度調査 柳 悟 聖 119-3

コミュニケーションにおける状況の文脈再考
(特集 多様化する日本語研究の現在) アンドレイ・ベケシュ 119-11

日本語

「城下町」用語とその概念の変遷 川 名 禎 119-3

初級日本語教科書における基本語彙の検討

—フィンランドで編纂された『JAPANIN KIELI』の名詞を中心に—
本 間 美奈子 119-3

ビジネス会話と職場の雑談における条件表現 叶 希 119-5

「<…む>とす」表現の読解と問題点

—主体の人称と意志の有無とに注目して— 中 村 幸 弘 119-6

非動作性二字漢語／調なし一字漢字／サ変複合動詞の時代
カタカナ外来語略語形+接尾辞「化」

—連体修飾語としての「欲望する」「塑する」「キャラ化する」—
(特集 多様化する日本語研究の現在) 中 村 幸 弘 119-11

グローバル化と文法概念 —一品詞論をめぐって—

(特集 多様化する日本語研究の現在) 大 野 眞 男 119-11

古典文における同格・提示・挿入の融合構文とその読解

(特集 多様化する日本語研究の現在) 小 田 勝 119-11

消えゆく言語・方言を守るには

(特集 多様化する日本語研究の現在) 木 部 暢 子 119-11

「AっBり」型のオノマトベ —基本要素との関わり— (特集 多様化する日本語研究の現在)	小野正弘 119-11
滑稽本におけるノダとその周辺 (特集 多様化する日本語研究の現在)	鶴橋俊宏 119-11
漢字能力についての一考察 (特集 多様化する日本語研究の現在)	アルド・トリニ 119-11
コミュニケーションにおける状況の文脈再考 (特集 多様化する日本語研究の現在)	アンドレイ・ベケシュ 119-11
日本語非母語話者の会話におけるポライトネス —日本語母語話者とブラジル人の日本語会話の対照研究— (特集 多様化する日本語研究の現在)	上甲アリセ 119-11
擬似的文法表現の地理的傾向 —とりたての発想法をめぐる— (特集 多様化する日本語研究の現在)	小林隆 119-11
文法とコミュニケーション —スル表現とナル表現, てあげる— (特集 多様化する日本語研究の現在)	井上優 119-11
日本語における韻律習得・教育の課題と学習者音声アーカイブの構築 (特集 多様化する日本語研究の現在)	林良子 119-11
これまでの琉球方言アクセント研究とこれから (特集 多様化する日本語研究の現在)	上野善道 119-11
大分県方言依頼談話における配慮表現の世代差 —切り出し・断り・受諾の表現— (特集 多様化する日本語研究の現在)	杉村孝夫 119-11
宮古島旧平良市方言の音韻—補遺— (特集 多様化する日本語研究の現在)	久野真 119-11
高校生の「全員」「原因」「店員と定員」の発音と意識 (特集 多様化する日本語研究の現在)	久野マリ子 119-11
動詞否定形アクセント調査を通して東京のことばを考える (特集 多様化する日本語研究の現在)	御園生保子 119-11
大井川流域における文法形式の変化 (特集 多様化する日本語研究の現在)	木川行央 119-11
社会構成員の複雑化とその表象表現を科学にする言語研究の系譜 国学から国語学そして日本語学。国語学から方言学そして社会言語学 (特集 多様化する日本語研究の現在)	佐藤和之 119-11
沖縄北部瀬底方言の音調体系再考 (特集 多様化する日本語研究の現在)	ウエイン・ローレンス 119-11
テキストアナリシスによる明治期日本語教科書『日語指南』の検証 (特集 多様化する日本語研究の現在)	伊藤孝行 119-11

- 「想像焦点が移動する」 — 助動詞「らむ」に係る「新説」解釈法批判の
類型整理と松尾捨治郎の論の補正とについて — 色川大輔 119-12
ドーナデ『最後の授業』における人称詞 佐久間俊輔 119-12

英語

- アクティブ・ラーニング論に言う「深さ」の問題
— 英語教育の改善に向けて — 高屋景一 119-4
英文法の迷宮 野呂健 119-8

その他の諸言語

- 初級日本語教科書における基本語彙の検討
— フィンランドで編纂された『JAPANIN KIELI』の名詞を中心に —
本間美奈子 119-3

文学

日本文学

- 米国議会図書館所蔵『源氏物語』の本文の様相 — 若紫巻を中心に —
菅原郁子 119-7

詩歌

- [近世]
寛永文化期の鷹峯 工藤隆彰 119-5

小説・物語

- [中古]
米国議会図書館所蔵『源氏物語』の本文の様相 — 若紫巻を中心に —
菅原郁子 119-7

地藏説話の享受と展開

- 『日本霊異記』から十四卷本『地藏菩薩靈驗記』まで —
霧林宏道 119-7

葵巻 六条御息所の「袖ぬるる」歌と源氏の和歌贈答について

- 「和歌リテラシー」の観点から — 小野真樹 119-9

[中世]

地藏説話の享受と展開

- 『日本霊異記』から十四卷本『地藏菩薩靈驗記』まで —
霧林宏道 119-7

[近世]

地藏説話の享受と展開

- 『日本霊異記』から十四卷本『地藏菩薩靈驗記』まで —
霧林宏道 119-7

[近代以後]

太宰治「女神」論 —パロディ文学の普遍性— 吉 岡 真 緒 119-10

昔話の談話構造と表現形式にみる地域性

(特集 多様化する日本語研究の現在) 日 高 水 穂 119-11

ドーデ『最後の授業』における人称詞 佐久間 俊 輔 119-12

評論・エッセイ・随筆

[近世]

寛永文化期の鷹峯 工 藤 隆 彰 119-5

[近代以後]

美術としての小説 [ノベル] の成立

—『小説神髓』における「人情」を手がかりに— 清 水 徹 119-1

非動作性二字漢語／訓なし一字漢字／
カタカナ外来語略語形+接尾辞「化」 サ変複合動詞の時代

—連体修飾語としての「欲望する」「塑する」「キャラ化する」—

(特集 多様化する日本語研究の現在) 中 村 幸 弘 119-11

日記・書簡・紀行

[近世]

寛永文化期の鷹峯 工 藤 隆 彰 119-5

外川仙入堂信仰の展開 佐 藤 優 119-6

漢詩文・日本漢文学

[中古]

嵯峨朝における文章と経国 —漢文芸の二重の価値— 宋 晔 119-9

[近世]

寛永文化期の鷹峯 工 藤 隆 彰 119-5

ドイツ文学

スロヴェニア文学事始 —イヴァン・ツァンカルを手掛かりに—

宍 戸 節太郎 119-4

その他の諸文学

スロヴェニア文学事始 —イヴァン・ツァンカルを手掛かりに—

宍 戸 節太郎 119-4

書評

吉田律人著『軍隊の対内的機能と関東大震災—明治・大正期の災害出動—』

齋 藤 義 朗 119-1

小林覚著『古代出雲の実相と文学の周辺』

谷 口 雅 博 119-1

上山和雄著『日本近代蚕糸業の展開』

坂 口 正 彦 119-2

大塚千紗子著『日本霊異記の罪業と救済の形象』

富 樫 進 119-3

手塚雄太著『近現代日本における政党支持基盤の形成と変容 —「憲政常道」から「五十五年体制」へ—』	米山忠寛	119-5
青木敬著『土木技術の古代史』	土生田純之	119-6
東城敏毅著『万葉集防人歌群の構造』	松田聡	119-10
飯沼清子著『源氏物語と漢世界』	山田直巳	119-10
藤野寛著『友情の哲学 緩いつながりの思想』	濱岡剛	119-12
福井崇史著 『外見の修辞学—一九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説』	石原剛	119-12

紹介

青木周平著『青木周平著作集 下巻 古代文献の受容史研究』	多田元	119-2
岡崎正継著『中古中世語論攷』	小柳智一	119-2
松尾葦江編『ともに読む古典 中世文学編』	高山実佐	119-3
谷口康浩著『縄文時代の社会複雑化と儀礼祭祀』	阿部昭典	119-4
高久舞著『芸能伝承論 伝統芸能・民俗芸能における演者と系譜』	大石泰夫	119-4
野中哲照著『陸奥話記の成立』	桜井宏徳	119-5
大道晴香著『「イタコ」の誕生 マスメディアと宗教文化』	飯倉義之	119-5
笹川勲著『源氏物語の漢詩文表現研究』	津島昭宏	119-6
座安浩史著『ウチナーヤマトウグチの研究』	林良子	119-7
新谷尚紀著『神道入門—民俗伝承学から日本文化を読む』	大東敬明	119-8
川合康三著『生と死のことば 中国の名言を読む』	宮内克浩	119-9
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』	鈴木靖民	119-10

談話室

物語本文の研究 —『源氏物語』と『狭衣物語』と—	豊島秀範	119-1
石井進先生と徳江元正先生	千々和到	119-2
南信州・遠山郷の旧木沢小学校 —猫校長のいる木造校舎	田嶋一	119-3
國學院雑誌に纏はる嗟	阪本是丸	119-4
愛すること、日本島嶼学会、そしてギリシア	藤野寛	119-5
サイバー空間 國學院!?	井上明芳	119-6
現代ドイツ語の他言語からの影響	新倉真矢子	119-7

- 古代都城雑感 青 木 敬 119-8
研究と教育との結びつきについて
—上田万年を手がかりにあらためて考える— 多和田 真理子 119-9
渋谷で中国古典を読む 川 合 康 三 119-10
いつの間に「神話」とこんなに縁が出来たのだろうか？ 山 田 利 博 119-12

インタビュー

- 道標 吉 田 悦 之 119-12

講演録

- ブラジルにおける日本語教育の諸問題 久野 マリ子
アリセ・タミエ・ジョウコウ 119-4

座談会

- 古典のあり方をめぐって 上 野 誠
川 合 康 三
沓 掛 良 彦
ワトソン・マイケル
(司会) 河 野 貴美子 119-2

〔執筆索引（五十音順）〕

青 木 敬	古代都城雑感（談話室）	119-8
阿 部 昭 典	谷口康浩著『縄文時代の社会複雑化と儀礼祭祀』（紹介）	119-4
アリセタエ ジョウコウ	ブラジルにおける日本語教育の諸問題（講演録）	119-4
アルド・トリニ	漢字能力についての一考察 （特集 多様化する日本語研究の現在）	119-11
アンドレイ・ベケシュ	コミュニケーションにおける状況の文脈再考 （特集 多様化する日本語研究の現在）	119-11
飯 倉 義 之	大道晴香著 『「イタコ」の誕生 マスメディアと宗教文化』（紹介）	119-5
飯 倉 義 之	日本色話大成序説 一研究史の整理から一	119-10
叶 希	ビジネス会話と職場の雑談における条件表現	119-5
石 井 研 士	「魔法」という矛盾 一「魔法少女」形成期における「魔法」の位置付けについて	119-6
石 原 剛	福井崇史著『外見の修辞学 ——九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説』 （書評）	119-12
伊 藤 孝 行	テキストアナリシスによる 明治期日本語教科書『日語指南』の検証 （特集 多様化する日本語研究の現在）	119-11
井 上 明 芳	サイバー空間 國學院！？（談話室）	119-6
井 上 優	文法とコミュニケーション 一スル表現とナル表現、てあげる一 （特集 多様化する日本語研究の現在）	119-11
色 川 大 輔	「想像焦点が移動する」 一助動詞「らむ」に係る「新説」解釈法批判の類型整理と 松尾捨治郎の論の補正とについて一	119-12
ウエイン・ローレンス	沖縄北部瀬底方言の音調体系再考 （特集 多様化する日本語研究の現在）	119-11
上 野 誠	古典のあり方をめぐって（座談会）	119-2
上 野 善 道	これまでの琉球方言アクセント研究とこれから （特集 多様化する日本語研究の現在）	119-11

大石泰夫	高久舞著 『芸能伝承論 伝統芸能・民俗芸能における演者と系譜』 (紹介)	119-4
大野真男	グローバル化と文法概念 —一品詞論をめぐって— (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
岡田莊司	稲と粟の祭り —大嘗祭と新嘗—	119-12
小田勝	古典文における同格・提示・挿入の融合構文とその読解 (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
小野真樹	葵巻 六条御息所の「袖ぬるる」歌と源氏の和歌贈答について —「和歌リテラシー」の観点から—	119-9
小野正弘	「AっBり」型のオノマトペ —基本要素との関わり— (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
上白石実	幕末維新时期盛岡における操興行と盛岡藩	119-2
川合康三	古典のあり方をめぐって (座談会)	119-2
川合康三	渋谷で中国古典を読む (談話室)	119-10
川名禎	「城下町」用語とその概念の変遷	119-3
木川行央	大井川流域における文法形式の変化 (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
木部暢子	消えゆく言語・方言を守るには (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
霧林宏道	地蔵説話の享受と展開 —『日本霊異記』から十四巻本『地蔵菩薩霊験記』まで—	119-7
杳掛良彦	古典のあり方をめぐって (座談会)	119-2
工藤隆彰	寛永文化期の鷹峯	119-5
久野真	宮古島旧平良市方言の音韻—補遺— (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
久野マリ子	ブラジルにおける日本語教育の諸問題 (講演録)	119-4
久野マリ子	高校生の「全員」「原因」「店員と定員」の発音と意識 (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
河野貴美子	古典のあり方をめぐって (座談会)	119-2
小手川正二郎	「男らしさ」(masculinities) の現象学試論 —「男らしさ」の現象学はフェミニズムに寄与しうるのか?—	119-12
小林隆	擬似的文法表現の地理的傾向 —とりたての発想法をめぐって— (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11

小柳智一	岡崎正継著『中古中世語論攷』(紹介)	119-2
齋藤義朗	吉田律人著『軍隊の対内的機能と関東大震災 —明治・大正期の災害出動—』(書評)	119-1
坂口正彦	上山和雄著『日本近代蚕糸業の展開』(書評)	119-2
阪本是丸	國學院雑誌に纏はる嘶(談話室)	119-4
佐久間俊輔	ドーア『最後の授業』における人称詞	119-12
桜井宏徳	野中哲照著『陸奥話記の成立』(紹介)	119-5
佐藤和之	社会構成員の複雑化とその表象表現を科学にする言語研究の系譜 国学から国語学そして日本語学。国語学から方言学そして社会言 語学(特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
佐藤優	外川仙人掌信仰の展開	119-6
塩川哲朗	月次祭・新嘗祭班幣に関する一試論	119-5
穴戸節太郎	スロヴェニア文学事始 —イヴァン・ツァンカルを手掛かりに—	119-4
清水徹	美術としての小説[ノベル]の成立 —『小説神髓』における「人情」を手がかりに—	119-1
上甲アリセ	日本語非母語話者の会話におけるポライトネス —日本語母語話者とブラジル人の日本語会話の対照研究— (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
菅原郁子	米国議会図書館所蔵『源氏物語』の本文の様相 —若紫巻を中心に—	119-7
杉村孝夫	大分県方言依頼談話における配慮表現の世代差 —切り出し・断り・受諾の表現— (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
鈴木健多郎	『仏度伝』に見る内山真龍の神観と仏教観(学生懸賞論文)	119-8
鈴木靖民	佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』(紹介)	119-10
宋 晗	嵯峨朝における文章と経国 —漢文芸の二重の価値—	119-9
大東敬明	新谷尚紀著 『神道入門 —民俗伝承学から日本文化を読む』(紹介)	119-8
高屋景一	アクティブ・ラーニング論に言う「深さ」の問題 —英語教育の改善に向けて—	119-4
高山実佐	松尾葦江編『ともに読む古典 中世文学編』(紹介)	119-3
田子晃矢	清代中期における書院の「官学化」と科道官(学生懸賞論文)	119-8

- 田 嶋 一 南信州・遠山郷の旧木沢小学校
一猫校長のいる木造校舎（談話室） 119- 3
- 多 田 元 青木周平著
『青木周平著作集 下巻 古代文献の受容史研究』（紹介）
119- 2
- 谷 口 雅 博 小林覚著『古代出雲の実相と文学の周辺』（書評） 119- 1
- 田 村 幸 男 日本の産業近代化と入学・就職・転職移動の計量歴史学的研究
一官立仙台高等工業学校を事例として一 119- 2
- 多和田 真理子 研究と教育との結びつきについて
一上田万年を手がかりにあらためて考える一（談話室）
119- 9
- 千々和 到 石井進先生と徳江元正先生（談話室） 119- 2
- 津 島 昭 宏 笹川勲著『源氏物語の漢詩文表現研究』（紹介） 119- 6
- 鶴 橋 俊 宏 滑稽本におけるノダとその周辺
（特集 多様化する日本語研究の現在） 119-11
- 手 塚 雄 太 戦時期における衆議院議員の活動と支持基盤
一翼賛選挙非推薦議員安藤正純と無尽・仏教界を中心に一
119- 1
- 富 樫 進 大塚千紗子著『日本靈異記の罪業と救済の形象』（書評）119- 3
- 豊 島 秀 範 物語本文の研究—『源氏物語』と『狭衣物語』と—（談話室）
119- 1
- 中 村 幸 弘 「<…む>とす」表現の読解と問題点
一主体の人称と意志の有無とに注目して一 119- 6
- 中 村 幸 弘 非動作性二字漢語／訓なし一字漢字／カタカナ外来語略語形+接尾辞「化」 サ変複合動詞の時代
一連体修飾語としての「欲望する」「塑する」「キャラ化する」—
（特集 多様化する日本語研究の現在） 119-11
- 新 倉 真矢子 現代ドイツ語の他言語からの影響（談話室） 119- 7
- 西 岡 和 彦 山崎闇斎と『旧事大成経』 119- 8
- 根 岸 茂 夫 荷田春満と赤穂浪士 119- 5
- 野 呂 健 英文法の迷宮 119- 8
- 服 部 比呂美 天神祭祀と天神講 119- 2
- 土生田 純 之 青木敬著『土木技術の古代史』（書評） 119- 6
- 濱 岡 剛 藤野寛著『友情の哲学 緩いつながりの思想』（書評） 119-12
- 林 良 子 座安浩史著『ウチナーヤマトウグチの研究』（紹介） 119- 7
- 林 良 子 日本語における韻律習得・教育の課題と学習者音声
アーカイブの構築
（特集 多様化する日本語研究の現在） 119-11

日 高 水 穂	昔話の談話構造と表現形式にみる地域性 (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
藤 野 寛	愛すること、日本島嶼学会、そしてギリシア (談話室)	119-5
彭 露	中国博物館学の濫觴と展開に関する研究	119-10
星 野 光 樹	六人都是香の言霊論批判	119-3
本 間 美奈子	初級日本語教科書における基本語彙の検討 —フィンランドで編纂された『JAPANIN KIELI』の名詞を 中心に—	119-3
松 田 聡	東城敏毅著『万葉集防人歌群の構造』(書評)	119-10
御園生 保 子	動詞否定形アクセント調査を通して東京のことばを考える (特集 多様化する日本語研究の現在)	119-11
宮 内 克 浩	川合康三著『生と死のことば 中国の名言を読む』(紹介)	119-9
宮 元 啓 一	インドに根付いた古代ギリシアの原子論	119-7
山 口 祐 樹	古代伊勢神宮祭祀と大神宮司 (学生懸賞論文)	119-9
山 崎 雅 稔	偽書『南淵書』と権藤成卿、そして朝鮮	119-9
山 田 利 博	いつの間に「神話」とこんなに縁が出来たのだろうか? (談話室)	119-12
山 田 直 巳	飯沼清子著『源氏物語と漢世界』(書評)	119-10
柳 悟 聖	初級日本語教科書6種の多義語の頻度調査	119-3
吉 岡 真 緒	太宰治「女神」論 —パロディ文学の普遍性—	119-10
吉 田 尚 文	五井昌久における「霊界」思想の形成	119-1
吉 田 悦 之	道標 (インタビュー)	119-12
米 山 忠 寛	手塚雄太著『近現代日本における政党支持基盤の形成と変容 —「憲政常道」から「五十五年体制」へ—』(書評)	119-5
ワトソン・マイケル	古典のあり方をめぐって (座談会)	119-2